

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

### ① 森戸英幸ほか著『労働法トークライブ』有斐閣

(2020年7月刊, v+270p, 四六判)

気鋭の労働法学者2名が労働法というやや難しい分野の10本のトピックについて、わかりやすく、楽しく考えてもらえるよう、ライブ感のあるトーク形式で熱く語り合ったのが本書。まずは採用の自由が争われたM樹脂社事件を取り上げる。思想・信条を採用基準とし、会社が採用を拒否していいのかが争われた事件だ。森戸氏は「(最高裁は)採用拒否してよろしいと言った」と主張。対する小西康之氏は「学生に手を挙げさせても、おかしい。最初はみんなそう言いますね」。森戸氏は「雇うときは、好きな人を好きな基準で雇っていい、でも雇ってからは簡単にクビにはいけない、と長期雇用制とのバランスもとっているのではないか」と指摘する。

職場のハラスメントに耐え忍ぶ若者には「セクハラもパワハラもマタハラも、民事損害賠償の対象となりうる」(小西氏)。最終的には「企業名公表にまでつながりうる」(森戸氏)ので我慢しないよう訴えた。過労死問題では、森戸氏が労災保険給付と損害賠償請求の2つについて、調整はあるが、両方請求が可能だと解説した。

### ② 高橋均著『競争か連帯か』旬報社

(2020年7月刊, 190p, 四六判)

世界中に新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、多くの人々が切迫した生活状況に陥るなど社会のあり様が一変している。これに対し、著者は、分断と孤立をまん延させた市場万能経済を創りかえるよう求め、いまが四半世紀にわたって過度に強調されてきた自己責任社会から人間同士で支え合う連帯社会に大きくカジを切る機会だと主張。労働の尊厳を重視する労働運動の力と、暴走する市場経済の領域を縮小するための協同組合経済が結合して連携を再構築することが必要だと説く。「共益」の枠を超えた「公益」への脱皮が不可欠との考えだ。

本書は江戸時代から今日までの日本の協同組合と労働組合の関係性を具体的なエピソードを交えてつづる。「歴史をたどれば両者は車の両輪、コインの表裏の関係として始まっているのがわかる」と著者。明治時代に労働運動が台頭し始めて以来、労働組合と協同組合の協力関係は常に濃厚だったのが近年変化しつつあるとの見方を示し、両者が公益性を発揮しつつ、未来に向かって具体的にどのような目標を持ち、役割を担うべきかを探る。

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2020年6月～8月労働図書館受け入れ)

#### ③ 落合陽一著『働き方5.0』

小学館 (205頁, 新書判)

#### ④ 広瀬義徳ほか著『自立へ追い立てられる社会』

インパクト出版会 (265+v頁, 四六判)

#### ⑤ 明石純一著『人の国際移動は管理されるのか』

ミネルヴァ書房 (xii+281頁, A5判)

#### ⑥ 日経B P総合研究所イノベーションICTラボ著『テレワーク大全』

日経B P社 (287頁, A5判)

#### ⑦ リチャード・ウィルキンソンほか著『格差は心を壊す』

東洋経済新報社 (vii+434+52頁, A5判)

#### ⑧ 佐藤朋彦著『家計簿と統計』

慶應義塾大学出版会 (222頁, 四六判)

#### ⑨ 巖成男著『東アジア労働市場の制度改革とフレキシビリティ』

ナカニシヤ出版 (iii+265頁, A5判)

#### ⑩ 東谷由香著『働き方改革で伸びる女性つづれる女性』

日経B P社 (215頁, 四六判)

#### ⑪ 澤渡夏代プラントほか著『デンマークの女性が輝いているわけ』

大月書店 (259頁, 四六判)

#### ⑫ 澤田晃宏著『ルポ技能実習生』

筑摩書房 (270頁, 新書判)

### 労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書125,842冊、洋書32,810冊、和洋の製本雑誌27,114冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30～17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています



※現在、新型コロナウイルス流行の影響で臨時閉館している場合があります。開館情報はHPでご確認下さい。